ニワトリは約5000年前に家畜化された。祖先は東南アジアのジャングルに生息するセキショクヤケイだと考えられている。

ニワトリDATA

分類	鳥綱 キジ目 キジ科
体重	約2〜5kg
寿命	10〜15年

とさか

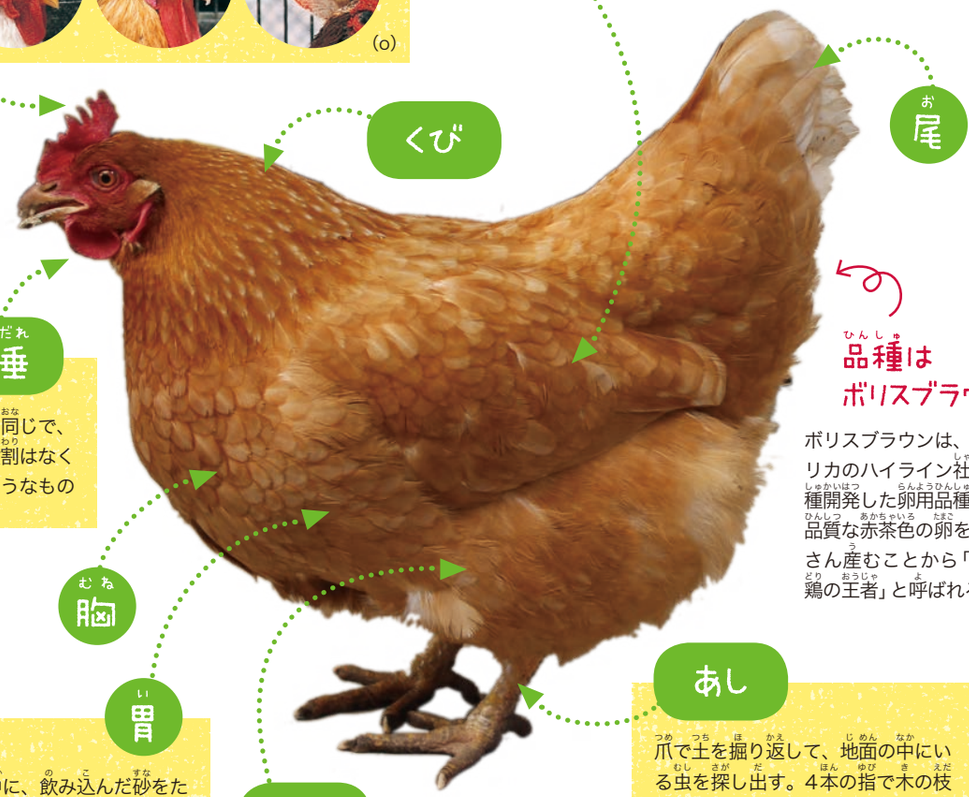
頭の皮膚が発達したもので、雄のとさかのほうが雌のものより大きい。特別な役割はなく飾りのようなもの。単冠、バラ冠、クルミ冠などいろいろな形がある

単冠　バラ冠　クルミ冠

(o)

翼

日が短くなる秋から冬にかけて雌は産卵を休む時期があり、その時期に全身が新しい羽毛に生え変わる



くび

尾

品種はボリスブラウン

ボリスブラウンは、アメリカのハイライン社が育種開発した卵用品種。高品質な赤茶色の卵をたくさん産むことから「赤玉鶏の王者」と呼ばれる

肉垂

とさかと同じで、特別な役割はなく飾りのようなもの

胸

胃

胃の中に、飲み込んだ砂をためている「砂のう(筋胃)」と呼ばれる場所がある。歯がないのでエサを噛むことができないが、飲み込んだエサを「砂のう」の中の砂とこすりあわせてすりつぶすことで、消化を助けている(焼き鳥の「砂肝」の部分)

もも

あし

爪で土を掘り返して、地面の中にいる虫を探し出す。4本の指で木の枝にしっかりつかまることもできる

※ひよこからの飼いかたは『ニワトリの絵本』(農文協)をご覧ください。

ニワトリは、一生のあいだに何個卵を産むの？

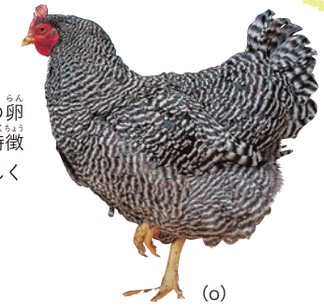
卵用の品種の場合、雌のニワトリは生後5ヵ月目ごろから卵を産み始め、6〜7ヵ月目になると毎日のように卵を産みます。その後だんだん産む数は減りますが、約7年間は卵を継続的に産み続け、一生のあいだに全部で1,500個くらい産卵する能力を持っています。

ただし、現在の大規模な養鶏場では、産卵の減る1年半〜2年目をすぎたニワトリは効率がよくないのでお肉になります(廃鶏)。岡田さんが知り合いの養鶏農家からもらってきたのはこの段階のニワトリで、産卵率が高いわけではありませんが、まだまだ卵を産む能力は十分あります。

いろんなニワトリの品種

横斑プリマスロック

アメリカのマサチューセッツ州原産の卵肉兼用品種。黒と白の細かい縞模様が特徴的。ニワトリの品種のなかでもおとなしく穏やかな性格で知られている



(o)

ホワイトポーリッシュ

モンゴルからポーランドに持ち込まれて広がった、頭部のフワフワした羽毛が特徴的な愛玩用のニワトリ。「ポール(髪をもつ頭)」から「ポーリッシュ」という名前がついた

(o)

白色レグホン

イタリア原産でアメリカで改良された品種。世界的にもっとも普及している卵用種で、白い殻の卵をたくさん産む

(o)

アローカナ

殻が水色の卵を産む。チリのアラウカノ族が飼育していた品種を交配選抜したニワトリ

(o)

尾長鶏

尾長鶏の雄の尾羽は生涯生え変わらずに伸び続ける性質があり、長生きすると10m以上になることも。高知県で観賞用に開発され、特別天然記念物に指定されている

(n)

写真・南国市教育委員会(n)、小倉隆人(o)